

# 新学習指導要領下における文章教材の学習について

— 中学校国語科教科書に見る「走れメロス」の言語活動 —

小 原 俊

## 一 平成の教育改革と新学習指導要領の位置付け

かつて平成十年度に改訂された学習指導要領の実施を前に、大平浩哉は新たに打ち出された国語科教育の改革の方向性を「ルネサンスとしての国語教育、あるいは『第三の波』としての国語教育」と呼び、次のような指摘を行った。

今回の改訂で国語科教育の目指す方向は、言語による表現力、理解力の基本を身に付けさせ、その基盤の上に立つて「伝え合う力」を高めること、そして自ら学び、自ら調べ、考え、話し合い、問題を解決していく能力と態度を育てていくことである。（中略）この「伝え合う力」の育成とか、自ら学び、自ら調べ、話し合い、情報を活用して問題を解決したりするということは、国語の授業がこれまでの教師主導、教科書中心の授業から学習者主体の授業へと移行していくことを意味する。

大平はさらに、中学校と高等学校の学習指導要領「国語」に「言語活動」が例示されるようになったことにもふれて、国語科が

教科の目標として掲げる言語の能力や態度を育成するに当たり重要な役割を果たすことになるのは学習者自身が主体的に取り組む学習活動（『言語活動』）にほかならないことを強調した。

平成十年度版学習指導要領で提示された学習者の主体性を重視する国語科の教育改革を大平が「第三の波」と表現したことについて、若干の補足をしておきたい。教師が主導権を握る形で実施される知識注入の教授から脱し、学習の原動力を学習者の自発性に求めようとする改革の流れは、近代以降の日本教育史上、すでに二度存在したと大平は述べている。大平によれば、最初に改革の波として現れたのは明治後期に自学主義、統合主義等と呼ばれる教育思想として萌芽し、大正自由教育へと展開されていった一連の教育運動であり、これが「第一の波」に相当する。次に改革の動きとして現れたのは昭和二十年代に戦後新教育として文部省が普及に努めたアメリカの経験主義に基づく教育であり、「第二の波」ということになる。それらの先駆的な試行の後、平成十年度版の学習指導要領で改めて目指すこととされた言語活動の重視、問題解決能力の育成を柱とする教

育改革を、大平は『第三の波』と呼んだのである。<sup>⑤</sup>

その後、平成二十年一月の中央教育審議会答申を受けて同年三月に小学校学習指導要領と中学校学習指導要領が改訂され、平成二十四年度の時点で義務教育における全面実施の段階を迎えている。また、平成二十一年三月には高等学校学習指導要領が改訂され、平成二十五年度から年次進行で実施される運びである。

改訂された学習指導要領は、小学校、中学校、高等学校いずれの「第1章 総則」にも「第1 教育課程編成の一般方針」に平成十年版学習指導要領を貫いていた児童生徒の「生きる力をはぐくむ」という理念が再び明記され、「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」を育成すること、「主体的に学習に取り組む態度」を養うこと、そして、そのための手段として学習における「言語活動を充実する」ことの必要性が述べられている。これらの文言が示すように、新学習指導要領は平成十年度版学習指導要領の理念と方針を継承していると言ってよい。つまり、改革の『第三の波』は、わが国の教育において現在も進行中ということになる。

## 二 文章教材「走れメロス」の言語活動

新学習指導要領ではいくつかの点について平成十年度版学習指導要領の教育内容の不十分であったところを補い、改善を目指す方向が示された。国語科に関わる改善の方向として注目しておきたいのは、言語活動の充実と伝統や文化に関する教育の

充実である。本稿では、この二点のうち言語活動の充実に焦点を当て、採録された文章教材を学習する上で言語活動の充実がどのように図られようとしているのか、新しい国語科教科書を見ることにした。具体的には、平成十年度版学習指導要領に準拠して編纂された教科書における教材の取り扱いと新学習指導要領に準拠して編纂された教科書のそれとを比べ、後者に現れている変化を確認しようということである。現時点での作業の対象となり得るのは、すでに新しい教科書の使用が開始されている小学校、および中学校の教材であるが、ここでは紙幅の都合上、中学校の「走れメロス」に教材を限定して行う。

周知のように、国語科の検定済み教科書には定番教材、安定教材などと呼ばれ、長年にわたって採録され続けている教材がある（例えば小学校では4年生用教科書の「こんぎつね」、高等学校では「国語総合」の「羅生門」、「現代文」の「山月記」、「こころ」などがそれに該当する）。中学校の国語科では、すべての2年生用教科書に「走れメロス」が採録されている。加えて、平成十年度版学習指導要領・新学習指導要領どちらの下でも中学校国語科の教科書を発行したのは光村図書、東京書籍、教育出版、三省堂、学校図書 の五社で、発行社が同じである。以上の二点から「走れメロス」は教材の取り扱いに関する新旧の比較が容易である。そこで、各発行社が教材「走れメロス」に設定した学習の目標、および各発行社なりに具体的な学習の方法を提案したものといえる学習の手引きについて、以下に平成十年度版学習指導要領に準拠したものと新学習指導要領に準拠し

たものとを記すこととした。

作業に当たって使用したのは、平成十年度版学習指導要領の下で編纂された平成十七年三月検定済みの教科書、および新学習指導要領の下で編纂された平成二十三年二月検定済みの教科書である。それぞれ教科書名をはじめに書き、検定合格の年をH17、H23と略記した。また、教材に付された学習の目標と学習の手引きについては、発行社によって名称と示し方が異なっているものを〔学習の目標〕、〔学習の手引き〕の項目に統一してまとめた。なお、学習の手引きに書かれてある設問の区分と番号、および本文中の具体的な箇所を指摘するために示されたページ数・行数については省略した。

### 【光村図書】

#### H17 『国語2』

##### 〔学習の目標〕

○登場人物の考え方や生き方について、自分の考えをもつ。

○描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わう。

##### 〔学習の手引き〕

○初めの部分でメロスはどうのような人物として描かれているかを読み取ろう。

○「暴君」の意味を調べ、初めのメロスと王の会話の部分から、王がどのような人物かを読み取ろう。

○メロスの考え方や人物像は、村から刑場に向かう途中で、何度か変化している。

・特に大きな変化が見える部分を三か所程度抜き出そう。

・なぜメロスの考え方はその部分で変化したのだろう。作品を読み返して考えよう。

○メロスの生き方について、共感できたか、できなかったかを、その理由も考えながら話し合ってみよう。

#### H23 『国語2』

##### 〔学習の目標〕

○作品を読み、登場人物の行動や考え方について、自分の考えをもつ。

○描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わう。

##### 〔学習の手引き〕

○登場人物・時・場所などに着目して、作品を幾つかの場面に分け、構成を確認しよう。

○描写や会話に着目して、登場人物の人物像の変化をとらえよう。

・最初に、「メロス」はどうのような人物として描かれているだろう。

・王城内での「メロス」と「王」の会話の部分を読み、「王」がどのような人物として描かれているかをまとめてみ

よう。

・「メロス」の考え方や人物像は、村から刑場に向かう途中で、何度か変化している。どんな場面でのように変化しているだろう。

○「メロス」の行動や考え方について、共感できたところや、できなかったところを、その理由も考えながら話し合ってみよう。

○作品に描かれた出来事や登場人物などを題材にして、好きな形式を選び、文章を書いてみよう。

(例) この作品の出来事を報道する、新聞記事を書く。

複数の場面を選び、登場人物の心情を短歌で表す。  
登場人物に宛てて手紙を書き、感想を伝える。

「走れメロス」の本の帯や、作品紹介の広告を作る。

## 【東京書籍】

H17『新編 新しい国語2』

〔学習の目標〕

○文学的な文章の特徴をとらえ、読み味わう。

〔学習の手引き〕 \*本文の直下に付された脚問等は省略

○全体をいくつかの場面に分けて、それぞれに見出しをつけよう。

○漢語表現が目立つ部分を探して音読し、どんな感じがするか話し合ってみよう。

○メロスの心情の変化とそのきっかけとなった出来事をま

とめてみよう。

○王やメロスに関する描写から、どんな心情や人物像が読み取れるかを考えよう。

H23『新しい国語2』

〔学習の目標〕

○人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。

○場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。

〔学習の手引き〕 \*本文の直下に付された脚問等は省略

○冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はそれぞれどのような人物として描かれているだろうか。二人の人物像を捉えよう。

○濁流の場面では、場面の緊迫感を表すために、どのような表現がされているだろうか、気づいた点を挙げてみよう。

(例えば、文末表現、誇張された表現、比喩表現などに着目してみよう。)

○疲れて立ち上がれなくなる場面では、冒頭の場面と比べて、メロスの考え方はどのように変化しているだろうか。

○再び立ち上がって刑場へ突入するまでの場面で、走り続けるメロスの姿はどのように描かれているだろうか。また、走り続けることにどのような意味があると考えられ

るだろうか。

○メロスとセリヌンティウスの再会の場面では、展開や表現の仕方などのような工夫がされているだろうか。気づいたことや考えたことを話し合ってみよう。

（例えば、最後の五行で「一人の少女」が登場するという展開には、どのような効果があると考えられるだろうか。）

### 【教育出版】

H17『伝え合う言葉 中学国語2』

〔学習の目標〕

○人間の生き方について考える。

\*「選択学習」用の教材として採録、学習の手引きなし

H23『伝え合う言葉 中学国語2』

〔学習の目標〕

○登場人物の心情や言動を捉え、人間の生き方について考える。

○人称の使い分けに注意して、その効果について考える。

○「悪い夢」について、作品全体や自分の体験などをふまえて話し合う。

〔学習の手引き〕

○『走れメロス』を六つの場面に分けて、それぞれに小見出しをつけよう。

○メロス、ディオニス、セリヌンティウスはそれぞれどのような人物なのか、自分の考えを発表しよう。

○メロスが村を出発してから、泉の水を飲んで再び走り出すまでの間に、どのような心情の変化があっただろうか。できごとの順番に沿って、ノートにまとめよう。

○「悪い夢」について次の点をふまえて、話し合おう。

・メロスがみた「悪い夢」の内容とはどのようなものか。

・これまでの自分の生活の中で、メロスが体験した「悪い夢」と似たような体験をしたことはないか。

・メロスのように、「悪い夢」をみたとき、人はどのようにすればよいのか。

○主人公が「メロス」として語られたり、「私」として語られたりしているが、これはどのような効果をもたらしているか、話し合おう。

○この作品を読んで、人間の生き方について考えたことを文章にまとめよう。

### 【三省堂】

H17『現代の国語2』

〔学習の目標〕

○登場人物の言動を通して、人間のあり方について考える。

○場面ごとのできごとや様子を、すぐれた描写を通してとらえ、心情を読み取る。

〔学習の手引き〕

○メロスはどうのような人物か、冒頭の場面からとらえよう。  
○城に再び戻るまでのメロスの様子と思いを、次の場面ごと  
にまとめよう。

・ 妹の結婚式の最中。

・ 村を出て走りだしたとき。

・ 山賊を倒したあと。

・ 水の音で目覚めたとき。

・ フイロストラトスに止められたとき。

○最後の場面で、殴り合ったときのメロスとセリヌンティ  
ウスの気持ちを、それぞれまとめて話し合おう。

○セリヌンティウスは、待っている間どのような気持ち  
でいたのかを確かめる。

○最初にメロスと話をしたときと、最後に「おまえらの望  
みはかなったぞ。」と言ったときの王の考え方はどのよ  
うに違っているか、話し合おう。

○王城でのメロスとの会話に着目する。「望みはかなった  
ぞ。」と言った理由を考える。

○この作品やほかの作品から、心に残っている場面を選ん  
で朗読し、優れた描写を味わおう。

H 23 『中学生の国語 二年（本編）』

＊別冊資料編と二冊組み

〔学習の目標〕

○登場人物の生き方や考え方について、自分の考えや意見

をもつ。

〔学習の手引き〕

○メロスと王との出会いの場面を、自分なりに表の形にし  
てまとめよう。

○次の場面には、メロスのどのような行動や気持ちが描か  
れているかを捉えよう。そして、捉えたことをみんなで  
話し合おう。

・ 城から村に向けて出発するまで

・ 村を出てから刑場に着くまで

・ 刑場に着いてから

○「おまえらの仲間の一人にしてほしい。」と言ったときの  
王の気持ちについて考え、話し合おう。

○この作品に登場するそれぞれの人物の考え方について、  
共感できることや疑問をもったことを交流しよう。

○メロスの心情はさまざまに変化している。どこかの場面  
を選んで、自分自身の考えと比べながら、感想を書こう。

### 【学校図書】

H 17 『中学校国語2』

＊単元のまとめとして学習する位置付け、学習の目標な  
し

〔学習の手引き〕

○次の手順で、工夫して音読しよう。

・ 「メロス」を指す語を抜き出し、どのように変化して

いるか考えよう。

・「メロス」の声で読んだ方がよいと考える部分に印をつけよう。

・「メロス」を指す語が変化している部分から、好きな箇所を選んで音読しよう。

○「走れ！ メロス。」はだれがだれに言っている言葉か、理由も含めて話し合おう。

○『「走れメロス」とは、……を描いた物語である。』という形のまとめの一文を含む文章を、二百字以内で書こう。書いたものを互いに紹介し合い、例えば次のような点で比べよう。

・だれが中心になっているか。

・主題をどのようにとらえているか。

○ディオニス、セリヌンティウスなど、メロス以外の人物の視点から物語を書いてみよう。

## H 23 『中学校国語2』

### 〔学習の目標〕

○さまざまな立場から出来事や心情を考えよう。

↓心情の移り変わりを表現に即して捉えよう。

### 〔学習の手引き〕

○約束を果たすまでの間に、メロスの心はどのようにに移り変わったか。次のことを手掛かりにしてまとめよう。

・いつ、どこで、どのような人物や事件に巡り会ったか。

・「メロス」を指す語を抜き出し、どのように変化しているか確かめる。

・メロス自身の心の中の言葉の部分か、語り手の言葉の部分か、自分なりに判断する。

○「走れ！ メロス。」は誰が誰に言っている言葉か、理由も含めて話し合おう。

○『「走れメロス」とは……を描いた物語である。』という形のまとめの一文を含む文章を、二百字以内で書こう。書いたものを互いに紹介し合い、次のような点で比べてみよう。

・誰が中心になっているか。

・主題をどのように捉えているか。

○ディオニス、セリヌンティウスなど、メロス以外の人物の視点から物語を書いてみよう。

○王の立場になって、次の質問に答えてみよう。

・なぜ人を信じられなくなったのか。

・メロスに時間を与えることでメロスの心にどんな変化が起きると思ったのか。

・帰ってきたメロスにきいてみたいことは何か。

・なぜ「仲間の一人にしてほしい。」と言ったのか。

筆者が波線を施した部分には具体的な言語活動が示され、それを通して学習を行うよう呼びかけがなされている。発行社によって推移に若干の違いはあるものの、概ね平成十年度版学習

指導要領の下、まず読後の話し合いから学習の手引きに導入された言語活動が、新学習指導要領の下では、読後の話し合いに加え、作品に描かれた出来事や登場人物を題材にしたさまざまな形式の文章を書く、展開や表現上の工夫（効果）について話し合うことで考えを深める、登場人物について考えたことを発表する、場面ごとに話し合いながら読み進めることで登場人物の行動や心情の変化を整理する、ロールプレイで登場人物の心中を語ってみる等、多様な形をとって盛り込まれるようになっていってよいだろう。これらの活動がいずれも「読むこと」の学習を活性化することにより学習の目標を達成する方途として採用されていることは言うまでもない。

### 三 学習指導における言語活動の捉え方

以上、教材「走れメロス」を例に、平成十年度版学習指導要領下の教科書および新学習指導要領下の教科書でそれぞれ立てられた学習の目標を達成するためどのような言語活動が提案されているかを見てきた。提案という表現を用いたのは、教科書に学習の手引きとして記載された学習の方法があくまでも参考の域を出るものではないからである。学習指導を構想する際に大切なのは、やはり教師一人一人が授業を担当する生徒の実態に合わせて言語活動を考案していくことであろう。この点に関して付言すれば、列挙した学習の手引きの中で波線を施さなかった学習活動についても同様である。発行社によって各教材に掲げられた学習の目標は学習指導要領に準拠しているため妥

当であると言えるとしても、学習の手引きに何らの工夫も加えず一問一答式の授業を展開することによって効果的な学習の実現を期待できる教室が、果たしてどれだけあるだろうか。

教科書には本稿で取り上げたような文章教材の他、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に関する活動の詳細な手順を記した「言語活動教材」と呼ばれる教材も採録されている。国語科教育に携わる実践者および研究者の一部に、それら「言語活動教材」を使って授業をする機会を増やすことが国語科における言語活動の充実なのであり、文章教材については過去と同じように精読の指導を行っていく、いわば二本立ての構成で指導計画を考えてよいという誤解が今なお存在すると耳にすることがある。しかし、言語活動それ自体を特別な学習活動と位置付け、これまで行われてきた国語の学習から切り離して捉えることは、新学習指導要領に対する正しい理解ではない。文章教材を使った授業においてもさまざまな言語活動を取り入れて、学習者の主体的な活動の場を確保することが「読むこと」の指導として重要なのだということを強調しておきたい。

注

(1) (3) 大平浩哉「第三の波」としての国語教育の改革―学習者主体の教育の流れの中で―（『早稲田大学国語教育研究』第二〇集、二〇〇〇年三月）参照。

（文部科学省）